

住民参加の生涯学習

国家基本政策委員会 専門員

やまぐち かずお
山口 一夫

先般、私の住んでいる文京区が主催する「文京アカデミアサポーター養成講座」という生涯学習支援ボランティアとして活動するための基礎知識を習得する講座を受講し、修了することができた。

現在、各自治体がそれぞれ工夫して、住民のための生涯学習講座を企画・立案し、多くの参加者を得ていることは、よく耳にすることである。文京区においても「地域特性である文化資源や大学をはじめとした教育機関等を活用することで、最先端の生涯学習・文化施策を展開する生涯学習都市・文京を実現する」ことを目的とする構想の一環として、財団法人を通じて地域、歴史・社会、芸術、くらし、語学、健康等様々な分野の講座を「文京アカデミア講座」として区民に提供している。

このような行政が提供する生涯学習講座は、必要なときにいつでも学ぶことができるという意義があることはもちろんであるが、ともすると安上がりなカルチャーセンターに陥るおそれもある。講座の企画段階から実施段階に至るまで地域住民が関与することは、住民ニーズに的確に応える意味でも、また地域貢献の場を広げていくことにおいても意義のあることであろう。

主に企画段階に参加する区民公募の「学習推進委員」という役割もあるが、実施段階に参加する「アカデミアサポーター」は、多くの講座の中から自分の興味ある講座を選択し、その講座の運営をボランティアとして通常2名でサポートする。会場設営から始まって、講師のお世話、資料のセット、受講者の出欠確認等講座の運営がスムーズに運ぶための役割を担うこととなる。講座にも出席して受講者と一緒に聴講することはもちろんである。特に重要な役割としては、講座を受講し、その感想や問題点、改善点を指摘するモニタリングが挙げられるであろう。受講者に満足を与える質の高い講座を企画するためには、受講者と同じ視点でとらえた講座の評価は必要不可欠である。

明治学院大学の坂口緑准教授によれば、生涯学習をしてみたい理由の1位には「趣味を豊かに」ということが挙げられるそうである。この「豊かに」という意味は、ただ単に自分の知識・経験を増やすということにとどまらず、同じ目標を持ちながら学習意欲と向上心を持った地域の仲間と一緒に場所と時間を共有したいという意味が込められているという。就業者の出席は夜間講座に限られることから、通常昼間の講座に出席できるのは、仕事をリタイアした男性、子どもが独立した女性、子育てが一段落し、親の介護負担が比較的軽い女性などが多い。これらの人々は、日常を過ごす家庭とは離れた場所、新たな人間関係の中で学習を通じ自らを高めることに強い意欲を持っていると思われる。

養成講座が修了し、現在 53 名が活躍されているサポーターに登録申請させていただいたが、生まれ育った地域のためにささやかな貢献ができればと思っている。